

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日. Values include 4074600109, 社会福祉法人北筑前福祉会, 津屋崎園グループホーム座々, 福岡県福津市奴山1205-1, 令和2年2月29日.

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先, URL: http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 4 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日, 評価結果確定日. Values include 株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター, 福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号, 令和2年3月11日, 令和2年4月30日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

北筑前福祉会の事業所として法人の経営理念を基に「楽しくなければ座々じゃない」をホームの理念として掲げ、①自ら考えよう②チームで話し合おう③率先して行動しようを基本方針として実践を行っている。本人のペースに合わせて自分らしく、毎日安心して笑顔で過ごせる支援を行い、ご入居者・ご家族・職員が協力し、支え合えるような関係作りに努めている。また、多数のボランティアの方々を訪れて頂き、地域の皆様との交流の場になっている。常に笑い声が聞こえるグループホームである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して17年目を迎える歴史を持つ事業所であり、昨年は職員意見を集約し、「楽しくなければ座々じゃない」の理念のもと、3項目の運営方針の見直しに取り組んでいる。入居者の方々や家族、職員それぞれが楽しく過ごせるように何をすべきか、と問いかねながらチームケアの質を高めるべく取り組んでいる。法人として多様な福祉サービスを運営しており、事例やノウハウの共有はもとより、地域交流や職員育成、災害対策等にて連携を発揮し、地域の中での存在を高めている。市主催の認知症啓発事業では、年に1回、事例発表やパネル展示等を行い、情報発信を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 58-64 describe various service outcomes and staff actions.

| 自己評価および外部評価結果      |     |   |   |   |                   |
|--------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| 自己                 | 外部  | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|                    |     |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |   |   |   |                   |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている  | 法人介護理念である「共生」と事業所の方針である「楽しくなければ座々じゃない」を、全職員が周知徹底出来るように毎日の朝礼で復唱し、ご入居者・職員が楽しく生活出来るように努めている。 | 昨年、事業所の運営方針の見直しに取り組み、職員の意見を集約している。「楽しくなければ座々じゃない」とされる理念はそのままに、3項目の新たな内容を作り上げている。この過程を通じて、あらためて理念を共有する機会となった。  |                   |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している  | 事業所周辺を散歩することによって近隣住民の方々の関係を作り、地域の小学校の運動会や行事に参加している。ボランティアの方に来て頂いている。                      | 地域コーディネーターの方よりアドバイスを頂き、ピーナッツを栽培し、学童の子供たちと共に収穫や交流を楽しむ機会があった。市主催の認知症啓発事業では、年に1回、事例発表やパネル展示等にて情報発信を行っている。  |                   |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている  | 福津市主催の認知症啓発事業や認知症セーフティネットワーク「蓮華草」に積極的に参加をし、地域の方々への認知症に対する理解度を深めていけるように努めている。              |   |                   |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている                                     | 2ヶ月に1回開催される運営推進会議では、事業所の現状報告や、取り組みについて参加の委員の方々達と意見交換したり、介護全般についての勉強会を行っている。               | 運営推進会議は、家族代表、区長、民生委員、認知症推進委員、福津市担当者等の出席を得て、2ヶ月に1回、開催されている。事業所の実状や地域情報等を共有し、意見や提案をサービス向上に結び付けるよう取り組んでいる。   |                   |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる   | 福津市主催の認知症セーフティネットワーク「蓮華草」に加盟・参加をし、研修・講習に参加をしている。  | 運営推進会議には、行政担当者及び認知症推進員の方々の出席を得ている。市主催の認知症セーフティネットワーク「蓮華草」の活動を通じて、啓発活動にも参加している。  |                   |
| 6                  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 全職員が身体拘束についての確認を行い私たちが守るべきご入居者について、勉強会・カンファレンスを開催している。法人内研修にも参加し理解を拭き取るように努めている。          | 身体拘束等行動制限についての取扱要領を定め、研修実施や委員会活動等を通じて、現状の振り返りとより良いケアの実践に努めている。帰宅願望の理由をひもとく考察や、センサー解除の視点確保等にも取り組んでいる。今後は、年に1回、運営推進会議の中で委員会を開催する予定としている。管理者は、権利擁護推進員として法人内研修の講師を担当している。 |                   |
| 7                  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている                                     | 高齢者虐待防止法について職員全員が理解し、虐待を見逃したり、自らが虐待をするような事が無いように周知徹底に努めている。(法人主催の人権学習に参加している。)            |   |                   |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|--|---|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8  | (6)  | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している  | 法人内外の研修に参加し理解を深めるように努めている。  | 成年後見制度や日常生活自立支援事業について、多様な福祉サービス事業を展開する法人内の事例共有や研修等を通じて、理解を深めるようにしている。  |                   |
| 9  |      | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている   | 契約時には一方的な説明にならない様に、ご本人やご家族と十分に時間をかけ話し合い、納得を得るように努めている。  |  |                   |
| 10 | (7)  | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている   | 苦情の相談窓口を置き、気軽に意見を頂けるような環境を作っている。また年に一度家族会を開催し、意見交換会をする機会を設けている。                                 | 年1回開催される家族会は参加率も高く、法人施設のホールにて食事を共にし、コミュニケーションを深めている。運営推進会議や日常の来訪時等には、意見や要望の聴取に努め、速やかな検討と対応に努めている。                        |                   |
| 11 | (8)  | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている  | 1年に1度法人の代表者、統括施設長を交えてのフリートーキングの実施、職員全体会議・フロア会議・リーダー会議で意見や要望を述べる機会を設けている。                        | 年に1回、事業所単位で法人代表や統括施設長を交えて食事を共にする機会を設け、職員意見を直接聞くことが出来る機会を設けている。会議も含め、事前にアンケートにて意見を聴き取り、車両導入が実現した経緯もある。                    |                   |
| 12 |      | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている  | 管理者は、年2回職員全員と面談を行い仕事に対する悩みや、現状の課題解決、相談を聴く機会を設けている。  |  |                   |
| 13 | (9)  | ○人権の尊重<br>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 採用された職員の能力を十分に生かすことができる場をもち、活躍できるようにしている。法人内異動もあり、年齢・性別・資格の有無に関係なく採用している。また、キャリアパスについても力を入れている。 | 職員の採用にあたり、年齢や性別等による排除は行われていない。次年度より、外国人技能実習生の受け入れも予定されている。キャリアパス制度を導入し、職員個々の向上心やモチベーションの確保と処遇改善に取り組み、働きやすい職場環境づくりに努めている。 |                   |
| 14 | (10) | ○人権教育・啓発活動<br>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる   | 法人の基本理念に「人倫を尊重して人としての尊厳の確保」を掲げており、ご入居者に対し人権を尊重し、尊敬の念を持って接している。法人内の人権学習に積極的に参加している。              | 法人内及び事業所の研修の中で、人権や認知症ケア等を位置付け、職員への人権教育、啓発に努めている。   |                   |

| 自己                           | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
|                              |      |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15                           |      | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 職員が積極的に法人内外の研修に参加している。また法人内の研修が多く開催され多くの職員が研修に参加し、自分自身のスキルアップに努めている。 |  |                   |
| 16                           |      | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修会に参加し、他事業所の職員と交流し、お互いの情報を交換し、質の向上に努めている。                           |  |                   |
| <b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |      |  |  |  |                   |
| 17                           |      | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている           | 入居前にご本人と面談を行っている。ご家族より情報をいただき、入居後は寄り添いながらゆっくりと信頼関係作りに努めている。          |  |                   |
| 18                           |      | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている                      | 家族の要望や不安等を聞き、その意向を尊重し利用者と家族に十分な支援が出来るように努めている。                       |  |                   |
| 19                           |      | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている                  | アセスメントの情報と現在の状態を確認しながら、現在最も必要なサービス支援を行っている。                          |  |                   |
| 20                           |      | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                                  | 法人理念の「共生」に添い、利用者の出来る事・得意なことを生かしながら、共に支えあい生活している。                     |  |                   |
| 21                           |      | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている                   | 家族との関係作りを大切にし、情報の共有を行い、互いに相談、協力し合い利用者を共に支えている。                       |  |                   |
| 22                           | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                               | 昔からの馴染みの場所に出掛けている。馴染みの方が面会に来られ、今までの関係が続けられている。                       | 家族との連携を図りながら、コーラスサークルへの参加を継続されている方もおり、介護計画にも位置付けながら支援を行っている。馴染みの場所へのドライブや伝統行事に触れる機会もあり、馴染みの関係継続に向けた支援に努めている。 |                   |

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
|                                    |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 23                                 |      | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                                   | 利用者同士が良い関りが出来るように努めている。利用者間でトラブルが発生した時は職員が間に入り、お互いの話を傾聴しその都度対応している。             |   |                   |
| 24                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | 退居された後も定期的に面会に行くことで、現在の状態の把握に努めている。家族にも必要に応じて相談をしている。                           |   |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |   |   |                   |
| 25                                 | (12) | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 利用者の希望や思いを聞き出し、それに沿った支援が行えるように努めている。聴き取りが困難な方は、利用者本人の生活習慣を把握し本人の立場になって考え支援している。 | 日常生活の中で、入居者個々人との馴染みの関係や信頼関係の構築に努め、思いや意向を表出できる場面を大切にしている。担当制を導入し、情報の集約と検討を行いながら、日々の暮らしに反映できるよう取り組んでいる。     |                   |
| 26                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 家族や本人から聴き取り、今までの暮らしを把握するようにしている。  |   |                   |
| 27                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 職員間で常に情報の共有を行い、利用者の状態の変化の把握に努めている。  |   |                   |
| 28                                 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 利用者本人とその家族の要望を伺い、フロア職員、計画作成、ケアマネージャーで話し合いを行い介護計画書の作成をしている。                      | 毎月、モニタリングを実施し、家族の確認印も頂いている。「生活援助計画」の中には、家族の役割も位置付けながら、日々の各種帳票やカンファレンス・モニタリングを通じて、現状の確認と見直しの必要性について検討している。 |                   |
| 29                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 利用者の日々の様子や変化があった時には気づきをケース記録に記入している。また連絡ノートを使用し、情報の共有を行っている。                    |   |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----|------|---|--|--|-------------------|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる                            | 本人や家族の意向を伺いながら、その時々に応じた柔軟な支援が行えるようにしている。   |  |                   |
| 31 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | 地域の行事(祭りやイベント)に参加する事により、楽しんで頂いている。   |  |                   |
| 32 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | 受診は、かかりつけ医に家族に付き添って頂いている。日々の様子を受診の際には、伝えている。また急な状態の変化の時には、職員が同行している。             | 家族との連携を図りながら、これまでのかかりつけ医への受診を支援し、情報共有に努めている。また、訪問診療体制や看護職員の配置により、日々の健康管理や適切な医療を受けられるよう支援している。  |                   |
| 33 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 医療連携体制を取り、24時間オンコールにより利用者の健康管理に努めている。  |  |                   |
| 34 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 病院でのカンファレンスに参加し、利用者にとってより良い状態で早期退院できるように医療機関との連携を図っている。定期的に職員が面会に行き、その様子を報告している。 |  |                   |
| 35 | (15) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 終末期生活支援の覚書を家族と共に作成し、利用者の体の変化を説明し、把握して頂いている。                                      | 入居時に、事業所としての方針や医療との連携体制について説明し、意向を確認している。担当者会議等にて、意向の確認を継続しながら、系列施設への住み替えも含めた対応について、事前の提案を行っている。これまでに看取りを支援した経緯もあり、緊急時対応等の研修を継続している。 |                   |
| 36 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 法人内外の研修に参加したり、勉強会を行いながら、日頃から知識を身に付け、急変時の対応がスムーズに行えるように努めている。                     |  |                   |

| 自己                               | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
|                                  |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37                               | (16) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている           | 毎月の自主訓練と年二回の消防署との避難訓練を行っている。初期消火や避難経路の確認を行っている。年二回の訓練の際には、災害時の避難方法の指導を受けている。運営推進会議の中で地域の方の協力をお願いしている。 | 消防署より各種災害や時間帯の想定を受け、避難訓練を実施している。また、数百名の職員が在職する法人として、年2回、緊急連絡網の連絡訓練を実施している。防災計画とは別に、事業継続計画を策定し、災害対策の重要性を意識付けしている。 |                   |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |  |   |  |                   |
| 38                               | (17) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                   | 利用者一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩や年長者として、支援をさせて頂いている。   | プライベート空間としての居室の認識を高め、センサー使用の解除に向けた視点を持ち、ドアの開閉についても配慮している。個別の時間の流れや居場所の確保に配慮している。                                 |                   |
| 39                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 本人の希望に沿った支援が出来るように、日頃から本人の思いや希望を伺っている。  |  |                   |
| 40                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者本位に考え、利用者一人ひとりのペースを大切に、希望に沿った生活支援をしている。  |  |                   |
| 41                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | 普段から身だしなみについては、気配りをしている。入居時に化粧品を持参されている方もおられる。  |  |                   |
| 42                               | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | 見た目でも食事を楽しめるようにしている。盛り付けや配膳、片付けは、利用者と一緒にやっている。音楽をかけたり、楽しい会話をしながら食事をして頂いている。                           | 週に2回、手作りランチの日を設け、買い物や包丁を持ち、調理に参加して頂く機会がある。また、お寿司の出前や、馴染みのあるかしわ飯を用いる等、普段とは楽しみの機会も設けている。月に1回程度は外食の機会もある。           |                   |
| 43                               |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている          | 管理栄養士が献立を立てカロリー計算している。利用者一人ひとりの状態に合わせて、食事量、水分量を提供している。  |  |                   |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|------|--|--|---|-------------------|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                       | 毎食後に口腔ケアをすることにより、口腔内の清潔に努めている。また定期的に訪問歯科を利用し、口腔内ケアの管理、指導に努めている。    |   |                   |
| 45 | (19) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている       | 必要な入居者には、時間誘導で失禁の回数を減らすように努めている。                                   | 排泄チェック表を作成し、個別の排泄状況の把握に努めている。カンファレンス等にて、パターンや習慣、機能、排泄用品等、個別の支援を検討し、声掛けや誘導にて、個別の排泄の自立や失禁の減少に向けた働きかけに努めている。 |                   |
| 46 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる                       | 個々に応じた水分補給、無理のない運動に努め、便秘の予防に取り組んでいる。                               |   |                   |
| 47 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 利用者一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴支援を行っている。                                  | 日常的に入浴を準備し、基本的な入浴スケジュールのもと、希望や体調、状況等に応じて、柔軟な対応に努めている。入浴を望まない場合には、タイミングや声かけを工夫し、清潔保持に努めている。                |                   |
| 48 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している                        | 臥床時間、起床時間は本人のペースにお任せしている。その日の状態により、日中の休息を支援している。                   |   |                   |
| 49 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている                   | 服薬確認表にて毎回確認を行っている。   |   |                   |
| 50 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている      | 本人の出来る事出来ない事を把握し、役割を持って頂いている。行事やレクリエーションに参加して頂き、気分転換を行えるように支援している。 |   |                   |



| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|------|--|--|---|-------------------|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | (21) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している                      | 本人の希望を伺い、外出や外食を行っている。また家族の方にも協力して頂いている。                        | 多様な福祉サービスを展開する法人のスケールメリットも活かしながら、他施設の展望室や東屋、畑を活用し、外出の機会の確保に努めている。敷地内駐車場にテーブルを出し、喫茶を楽しんだり、定期的に外食の機会を設ける等の支援を行っている。 |                   |
| 52 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 数名の利用者は、ご自身で所持している。買い物の際には、本人の財布から支払いをして頂いている。                 |   |                   |
| 53 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 本人の希望により、家族に電話をかけたり、手紙を出されたりしている。数名の利用者は、ご自身で携帯電話を持たれ、電話されている。 |   |                   |
| 54 | (22) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 四季ごとに合わせた壁画を作成している。また利用者一人ひとりに合わせた居室の環境整備を行っている。               | 玄関には、入居者の方々の絵を組み合わせた印象的な作品が掲示されている。また、除菌加湿噴霧器を設置し、感染対策に配慮されている。食卓や和室、各所に配置された椅子やソファ等、その時々に応じたくつろぎの場所が確保されている。     |                   |
| 55 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | 利用者一人ひとりが、自由に過ごせるように椅子やソファの配置に気をつけている。                         |   |                   |
| 56 | (23) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 今まで使われていた馴染みの家具などを使用して頂き、居心地良く過ごして頂いている。                       | トイレや洗面台が設置されている各居室には、筆筒や本棚等が持ち込まれ、動線の確保にも配慮されている。書籍や家族の写真等、それぞれの方にとっての馴染みの物や大切な品があり、安心して過ごせるよう配慮されている。            |                   |
| 57 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | 施設内はバリアフリーになっている。廊下には絨毯をひき、安全面に配慮している。利用者に合わせて場所の表示をしている。      |   |                   |